

細川コレクションⅣ
細川家の茶道具と大観、春草

No.	作品名	作者名	制作年	所蔵先	展示期間
細川家の近代絵画					
1	雲去来	横山大観	大正6年 (1917)	熊本県立美術館	前期
2	焚火	横山大観	大正4年 (1915)	熊本県立美術館	前期
3	山窓無月	横山大観	大正8年 (1919)	永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託	前期
4	国指定重要文化財 落葉	菱田春草	明治42年 (1909)	永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託	後期
5	国指定重要文化財 黒き猫	菱田春草	明治43年 (1910)	永青文庫所蔵 熊本県立美術館寄託	後期
細川家の茶道具と天目茶碗					
6	油滴天目		中国・金時代 (12～13世紀)	永青文庫	通期
7	禾目天目		中国・南宋時代 (12～13世紀)	永青文庫	通期
8	木葉天目		中国・南宋時代 (12～13世紀)	永青文庫	通期
9	黄天目		中国・元～明時代 (14～15世紀)	永青文庫	通期
10	黄天目 珠光天目		中国・元～明時代 (14～15世紀)	永青文庫	通期
11	虹手天目		中国・元～明時代 (14～15世紀)	永青文庫	通期
12	御宝物帳		大正5年カ (1916)	永青文庫	通期
13	瀬戸茶入 銘 山櫻		江戸時代前期 (17世紀)	永青文庫	通期
14	茶杓 銀河	細川重賢作	江戸時代中期 (18世紀)	永青文庫	通期
15	竹一重切花入	細川重賢作	江戸時代中期 (18世紀)	永青文庫	通期
16	茶入茶碗写真帖		安永7年 (1778)	永青文庫	通期
松井家の茶道具					
17	唐物茶壺 銘 深山		中国・元～明時代 (14～15世紀)	松井文庫	通期
18	千利休書状	松新公(松井康之)宛	(天正13年)閏8月4日付 (1585)	松井文庫	通期
19	竹茶杓	細川忠興作	江戸時代前期 (17世紀)	松井文庫	通期
20	瀬戸大津手茶入		江戸時代前期 (17世紀)	松井文庫	通期
21	細川忠興茶会道具附	細川忠興筆	寛永4年カ 9月24日・10月9日付 (1627)	松井文庫	通期

22	細川忠興茶会道具附	細川忠興筆	(年未詳)8月晦日付	松井文庫	通期
23	八代丸壺水指		江戸時代中期 (18世紀)	松井文庫	通期
24	金海茶碗		朝鮮王朝時代 (16~17世紀)	松井文庫	通期
25	御本茶碗		朝鮮王朝時代 (17世紀)	松井文庫	通期
26	御本茶碗 茂三		朝鮮王朝時代 (17世紀)	松井文庫	通期
27	八代刷毛目茶碗	太郎助(喜楽)作	明和2年 (1765)	松井文庫	通期
28	竹花入	松井營之作	江戸時代中期 (18世紀)	松井文庫	通期
29	玄圃靈三偈	玄圃靈三筆	慶長4年 (1599)	松井文庫	通期
特別展示					
30	針薬方	米田貞能書写	永禄9年10月20日 奥書(1566)	米田家文書 個人所蔵 熊本県立美術館寄託	1/8~ 2/9
31	明智光秀書状	細川藤孝・飯川信堅・ 曾我助乗宛	(永禄13年)4月20日付 (1570)	三宅家文書 熊本県立美術館	1/8~ 2/9
32	独見集	米田貞能書写	室町時代後期 (16世紀)	米田家文書 個人所蔵 熊本県立美術館寄託	2/11~ 3/22
33	織田信長朱印状	細川藤孝宛	元亀2年10月14日付 (1571)	米田家文書 個人所蔵 熊本県立美術館寄託	2/11~ 3/22
34	織田信長朱印状	細川藤孝宛	元亀3年7月3日付 (1572)	米田家文書 個人所蔵 熊本県立美術館寄託	2/11~ 3/22

細川家の茶道具

喫茶(きっさ)の習慣は鎌倉時代に禅僧が日本に持ち込み、禅宗の広がりとともに普及しました。室町時代から桃山時代にかけては、「わび茶」と呼ばれる茶道の様式が流行し、武家社会にも多くの愛好者を生み出しました。近世細川家の基礎を築いた細川忠興(ただおき)(1563-1645)も、茶道の愛好者のひとりです。忠興はわび茶の大成者である千利休(せんのりきゅう)に茶を学び、利休七哲(りきゅうしちてつ:千利休の弟子の中でもとりわけ優れた7人の弟子)のひとりに数えられるほどの名手でありました。細川家伝来の茶道具の中には、忠興をはじめとした細川家歴代当主によって収集された茶道具のほか、利休ゆかりの茶道具の名品が含まれています。また、当主自らが制作した茶杓(ちゃしゃく)や花入(はないれ)なども伝来し、優れたコレクションを形成しています。